

中央大学学術シンポジウム 考古学の地平をのぞむ

『縄文文化の食と居住～考古学と関連科学の研究成果から～』

(中央大学院文学研究科主催、中央大学人文科学研究所共催)

2013年9月28日 土曜 10時～16時30分

中央大学多摩キャンパス (3号館文学部 3114 予定)

(多摩モノレール中央大学・明星大学前駅(京王線高幡不動・小田急多摩センター駅乗り換え))

10:00 都築 学(中央大学院文学研究科委員長)

10:05 石井正敏(中央大学人文研所長・中央大学教授) 開会挨拶

<講演>

羽生淳子(UCバークリー教授)

食の多様性と文化の長期持続性—縄文から学ぶ— 10:10-11:10 (1時間)

武藤康弘(奈良女子大学教授)

民族事例からみる多様な住居の様相—平地式住居の実態— 11:10-12:10 (1時間)

<休憩> 12:10-13:00

高瀬克範(北海道大学准教授)

縄文文化の土地・資源利用の相対化 13:00-14:00 (1時間)

<コメント>

小林正史(北陸学院短大教授)

縄文深鍋のススコゲからみた台所構造 14:00-14:30 (30分)

小林謙一(中央大学教授)

炭素同位体分析による居住期間・住居の寿命と生業 14:30-15:00 (30分)

<休憩> 15:00-15:15

質疑・討論 15:15-16:15 (1時間) 司会小林 パネリスト:講演者・コメンテーター
～16:30 終了

17:30～19:30 懇親会 中央大学1号館(予定)